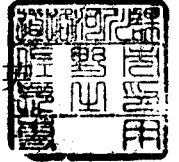




佐道河第28号
平成19年4月23日

国土交通省道路局長 様

栃木県佐野市長 岡部 正



中期的な計画の作成にあつたての意見の提出について（回答）

平成19年4月2日付、国道企第114号にて、依頼のありましたこのこと
について、別紙のとおり回答いたしますので、よろしく願いいたします。

道路政策や道路整備・管理について（佐野市）

道路は、国民生活や経済・社会活動を支える最も基礎的な社会基盤であり、その整備は、全国民が切望しているところです。

また、少子高齢化が進行している中、21世紀の社会資本を計画的に整備し、安全で安心できる国土の実現を図るうえでも、道路整備は一層重要となっております。

佐野市は、平成17年2月に合併し、面積は旧佐野市の4倍以上、人口は127,000人となり、佐野新都市地区という商業地から、中山間地まで幅広い地域を抱えるようになり、「対話、協調、融和」の精神のもと、良く話し合いながら事業を進めているところです。

佐野市総合計画に基づき、地域の特色を活かした快適なまちづくりをめざし、既成市街地に加えて佐野新都市、北関東自動車道田沼・佐野インターチェンジ周辺を核として整備し、それぞれを交通・情報ネットワークで有機的に結ぶことによる新市の一体性のあるまちづくりを推進するとともに、生活に密着した道路などの整備により、快適な生活環境の形成や都市環境の整備を図ることが急務となっております、新市3年目をむかえ、道路等の整備はますます重要となっております。

具体的には、発展著しい佐野新都市地区の国道50号線の渋滞がさらに進んでいるので、道路拡幅を必要としています。また、高速道路関係では、北関東自動車道の早期完成、東北自動車道では、佐野サービスエリアにスマートICを設置し、主要地方道桐生岩舟線に降りられれば、ドライバーの利便性に役立つと考えております。

北関東自動車道が完成すれば、そのアクセスを確保するため、県道田沼インター線などの整備のほか、周辺市道の整備も必要となります。

中心市街地については、主要地方道佐野行田線などの整備が進んでいますが、一層の渋滞緩和や市民の安全確保のために、都市計画道路黒袴迫間線（若松アンダー）、主要地方道桐生岩舟線、主要地方道佐野古河線などの整備にも取り組んでいかなければなりません。

さらに、大型車の通行の多い国道293号の道路の整備も欠かせません。

このように、大都市に比べて、地方都市の、道路整備はまだまだ立ち遅れているのが、現状です。

政府が進めている道路特定財源の一般財源化は、道路整備の財源不足をもたららし、今後の佐野市の発展に大きな弊害となってしまいます。

道路整備に必要な財源を確保するためにも、特定財源の堅持はどうしても必要であり、その一般財源化には、反対を表明いたします。